



米子市埋蔵文化財センターたより



第32号

2019年3月

米子城跡5 2次調査

- 良善幼稚園跡地の調査 -



調査地作業風景(北西より)

平成30年度末の3月6日から、鳥取大学医学部附属病院第2駐車場の立体化工事に向けての発掘調査に着手しました。この場所は、江戸時代に武家屋敷が建ち並んでいた一角で、明治維新後にはこの周辺一帯が水田化した後、良善幼稚園、鳥取大学の建物が建てられていた場所です。

この調査地の周囲は、隣接するガソリンスタンドの建設工事や、南側を走る米子駅境線の道路拡幅に伴う発掘調査で、弥生時代終末期から中世の良好な遺物が大量に出土しています。おそらく、江戸時代に城下町が造られる以前から、この場所に集落が営まれていたのでしょう。

また、弥生時代終末期の土器は、近畿地方で庄内式土器と呼ばれるもので、山陰地方では例の少ない土器です。まとまって出てきていることから、近畿地方から移住してきた人達もこの場所に住んでいたようです。まだ調査は始まったばかりですが、どのような成果が得られるのか、今から楽しみです。(佐伯)

発掘調査情報

一 米子城の謎の解明にむけて その9 ー 本丸大普請の跡を確認！

米子城跡から見る大山も春霞でおぼろげです。平成30年度の「史跡米子城跡保存整備事業」に伴う発掘調査では、豎堀に続く本丸北東側の切岸と表坂登城路の確認を行いました。切岸とは、郭の外側を急斜面に加工し、敵が登れないようにしたものです。調査の結果、本丸は大きく2回の普請（土木工事）を行っていることがわかりました。最初の普請では、地山を削り込んで切岸状に加工しています。この段階では石垣等は築かず、急崖の上には柵などの施設を設けていたようです。その後、大規模な普請（土木工事）を行って石垣を築いています。この時の盛土は厚さ1.5mにも及ぶ黄褐色の山土で、山頂を大きく削って普請（土木工事）を行っていることがわかりました。

調査は限定された範囲なのでそれぞれの時期がわかる遺物は出土しませんが、米子城の築城の謎の解明にまた一歩進むことができました。厚い盛土層は、米子城築城にかける人々の想いを伝えているようです。（文化振興課 濱野）



米子城の本丸の造成土層

整理室たより

新屋宮ノ段遺跡の出土品の整理

整理室では、新屋宮ノ段遺跡の基本整理を進めています。

出土遺物は、近代、近世、中世、原始古代と各時期に渡りますが、中でも縄文時代の土器は破片が多く接合作業に手間取っています。時期は早期から前期初頭のものが大半です。縄文早期の土器は楕円や山形の押型文や縄文を付して尖底です。前期初頭の土器は、口縁に隆帯を張付け、押引きの刺突文で、幾何学文様や沈線を付すものが見られます。これらの土器文様は、山間部の特色を示すものと考えられます。

ー 縄文土器の接合作業ー



前期初頭の土器（口縁隆帯に押引き刺突文）

遺跡シリーズ30 妻木晩田遺跡洞ノ原地区 (むきばんだいせきどうのはら)

米子市淀江町から大山町にまたがる大山北麓の妻木山から晩田山の山稜に広がる広大な遺跡です。

平成4年(1992)、ゴルフ場開発計画が持ち上がり、大山町教育委員会と淀江町教育委員会によって、平成7(1995)から四年間かけて発掘調査されました。

その結果、152ヵ所におよぶ弥生時代の大規模な集落跡であることが解り、400棟以上の竪穴建物跡及び500棟以上の掘立柱建物跡、30基以上の墳墓などが確認され、弥生時代の国邑と称される遺跡として全国的に注目されました。

洞ノ原地区の丘陵の最西端には弥生時代後期前半の環濠も発見され、また、山陰特有の四隅突出型墳丘墓など大小25基が確認され、弥生時代の妻木晩田の首長一族の墓と考えられています。

これまでの発掘調査成果に基づき「中国の歴史書に記された国の存在を示唆する大規模集落であり、当時の社会・集落像を考える上で極めて重要な遺跡である。」の理由で、平成11年に国の史跡に指定されました。

現在は、多数の竪穴建物や高床建物が復元され「むきばんだ史跡公園」として弥生時代を体感できるように保存整備されています。



洞ノ原地区の四隅突出型墳丘墓

コラム

江戸時代を掘る⑥

—米子城跡第29次調査—

この場所は1999年に県道米子境港線の拡張整備に伴い米子城跡第29次調査として緊急発掘されました。

ここは米子市内町に所在し、旧加茂川河口(外堀)の左岸に位置しています。

この調査では、中海の堤防状遺構が検出されました。また海岸縁であり、投棄された多数の下駄などの木製品や陶磁器などの遺物も出土しました。

堤防は石積みでなく杭を打ち込み横木をわたし、その上に石を投げ込んだ簡単な構造でした。この堤防の東側にあった為替蔵は明治2年(1869)に廃止されました。堤防は明治末頃に埋め立られたと考えられます。(小原)



2区調査区の堤防状況

センター・資料館日誌

- 1月30日(水) 県史編纂室の東方氏が借用資料の返却で来館。
大山町教育委員会の山口氏ほか1名が陶磁器鑑定調査で来館。
- 1月31日(木) 荒神谷博物館の学芸員が井手跨遺跡の縄文土器の借用で来館。
- 2月19日(火) 鳥取県ミュージアムネット研修会へ佐伯・小原が参加した。
- 2月25日(月) 大山町教育委員会の山口氏が陶磁器鑑定調査で来館。
- 3月1日(月) 大村雅夫氏の所蔵図書の大量寄贈があった。



- 3月3日(日) 和田婦人会の会合へ出前講座「今昔物語」を出前開催した
- 3月4日(月) 鳥取大学医学部立体駐車場建設に伴う「米子城跡第52次調査」を開始した。



- 3月14日(月) 米子市歴史館運営委員会が開催された。
- 3月19日(火) 佐伯統括が奈良元興寺文化財研究所へ出土鏡保存処理で出張。

行事案内

「史跡ガイドウォーク」 —成実の史跡を歩く—

石井要害跡や阿陀萱神社など成実の史跡を歩いて巡ります。ふるってご参加ください。



空から見た石井要害跡

開催日時 2019年5月25日(土)
午後13時30分～15時30分

集合場所 米子市石井 発掘現場駐車場
(藤井外科隣)

定員 30名 資料代100円

申込 電話・FAX 受付 26-0455

編集後記

大山の雪も解け始め、岩肌を見せるようになりました。暑さ寒さも彼岸までと言いますが、まだ朝晩の寒さが身に染みます。

調査員は、発掘現場や報告書作成が終わり、30年度と31年度の事務手続きに忙しい日々を送っています。

発行日 平成31年3月29日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp